

# 外来種キタアメリカフジツボの 厚岸沿岸における侵入経過と 在来群集への影響の解明

深谷 肇<sup>1</sup>・奥田武弘<sup>2</sup>・野田隆史<sup>3</sup>

<sup>1</sup>北海道大学大学院環境科学院

<sup>2</sup>遠洋水産研究所

<sup>3</sup>北海道大学大学院地球環境科学研究院

# キタアメリカフジツボ (*Balanus glandula*)



原産地：アメリカ西岸  
(アラスカ～カリフォルニア)

2000年北日本で初めて発見（外来種）

三陸地方の海岸では潮間帯を席卷している

# 近年、道東沿岸に侵入！



## 目的

1. 道東地域での現在の分布範囲は？
2. どのように分布を拡大してきた？

→ 広域・局所スケールで明らかにする。

# 1. 道東地域での現在の分布：広域スケール

各海岸におけるキタアメリカフジツボの存否（2010年）



分布が確認された海岸 26海岸  
(調査した海岸の全てで観測)

釧路～落石までの岩礁海岸に広く分布

# 1. 道東地域での現在の分布：局所スケール

各海岸におけるキタアメリカフジツボの被度（2010年8月）



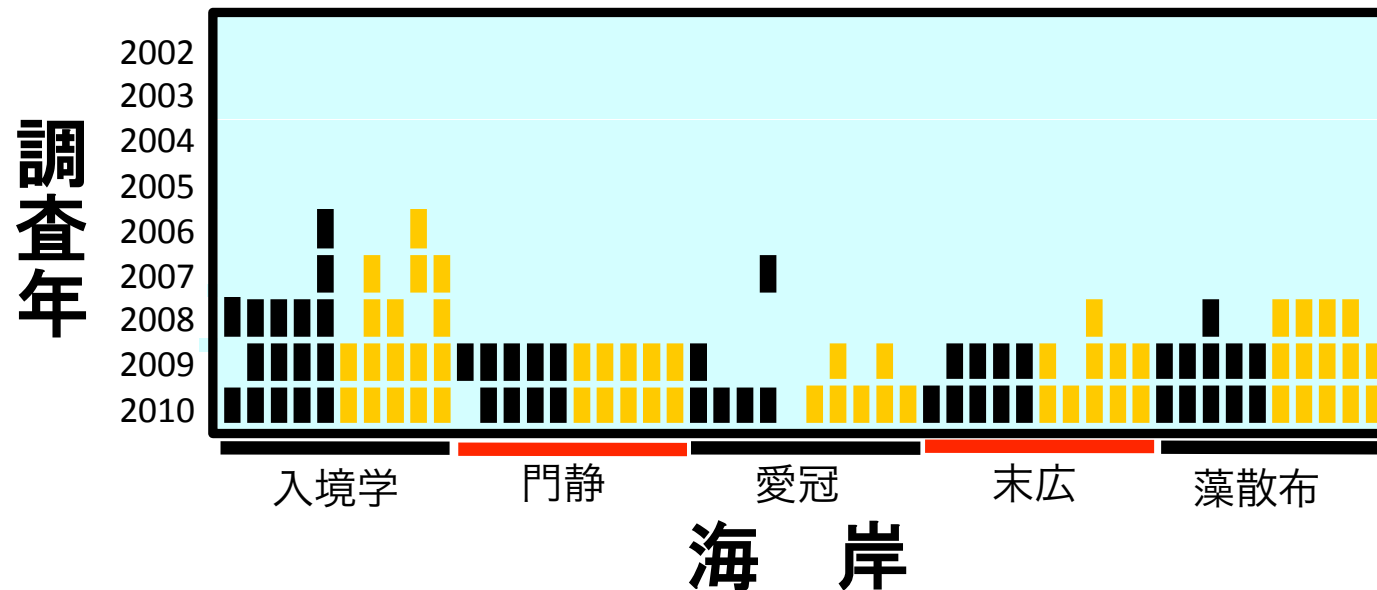
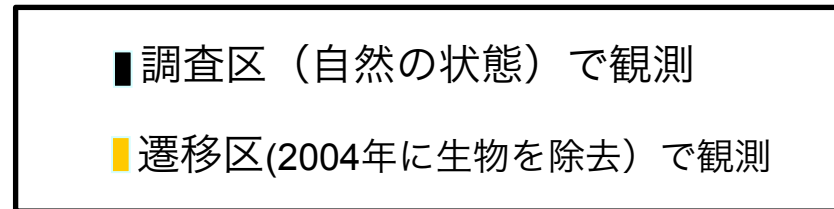
	三津浦	幌内	入境学	門静	愛冠	末広	藻散布	幌戸	落石
平均被度 (%)	5.0	14.4	9.2	0.0	0.2	2.6	0.7	18.1	5.7
SD	3.9	12.9	18.4	0.0	0.4	1.4	1.0	11.7	8.1

平均潮位を中心に縦100cm・横50cmのトランセクト中の被度

局所的な被度は高くない

## 2. 分布拡大の推移：広域スケール

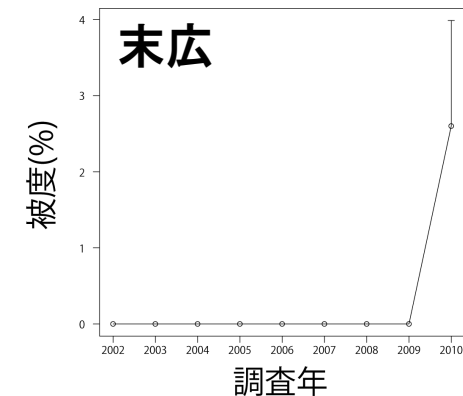
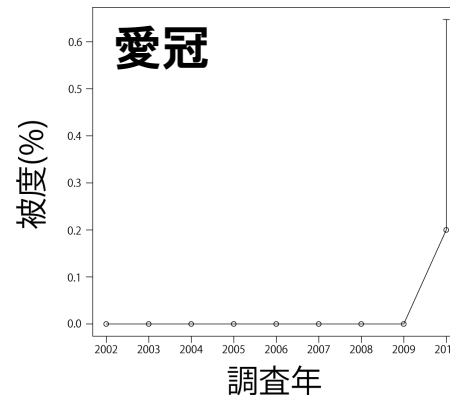
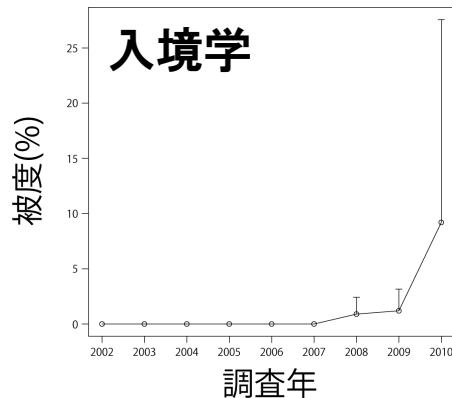
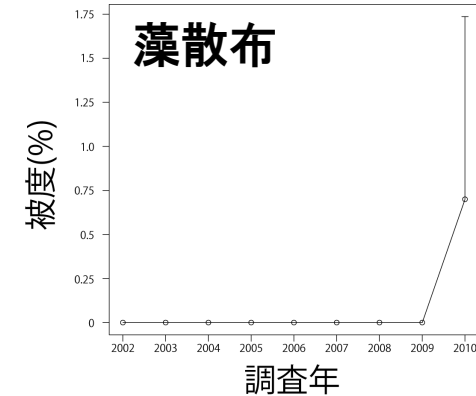
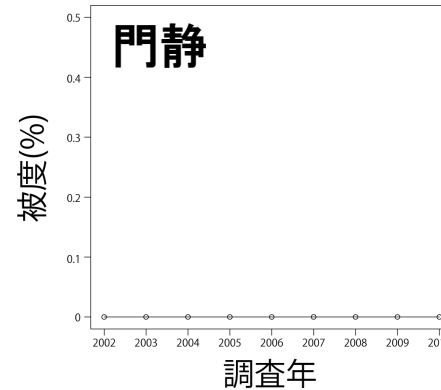
2002-2010年にかけての存否の推移（8月に調査）



2006年に入境学で初観測  
急激に分布を拡大

## 2. 分布拡大の推移：局所スケール

2002 - 2010年にかけての被度の推移（8月に調査）



平均潮位を中心に縦100cm・横50cmのトランセクト中の被度（5サイトの平均 ± 1SD）

2010年に被度が急増

## まとめ

1. キタアメリカフジツボは遅くとも2006年には道東地方に侵入、現在はずでに**広範囲に分布**している。
  2. 局所的な優占度は今のところ高くないが、2010年に**被度の急激な増加**が見られた。
- 侵入はまだ途上。局所的な被度の今後の増加とその影響を調べる必要がある。

## 今後の課題

1. キタアメリカフジツボはどんな環境条件の海岸で優占するのか？
2. キタアメリカフジツボの増加は在来の生物群集にどんな影響を及ぼすのか？